

## 外来生物調査プロジェクトProjectA報告

## 大阪府のハッカチョウの繁殖分布の現状

和田 岳

ハッカチョウは、真っ黒で、飛ぶと翼に大きな白斑が出るムクドリ仲間です(図1)。日本には、飼い鳥として持ち込まれたものが、1980年代以降、兵庫県、香川県、神奈川県などで繁殖・定着しています。大阪府では、1983年に豊中市で最初に繁殖し、2005年に淀川の長柄橋で繁殖を始めて以降定着し、各地に拡がりつつあります。

2018年の繁殖期に大阪府で過去にハッカチョウの記録のある場所をすべてチェックして、分布の現状を調べました(図2)。淀川下流部周辺にまとまって分布している以外は、各地に生息地が点在しているようです。



図1：ハッカチョウ。真っ黒で、嘴は白っぽい。成鳥では、上嘴の根元の羽根が立っている。翼に大きな白斑があり、飛ぶとよく目立つ。2016年1月26日、大阪市淀川区十三東1丁目にて、小島和江氏撮影。

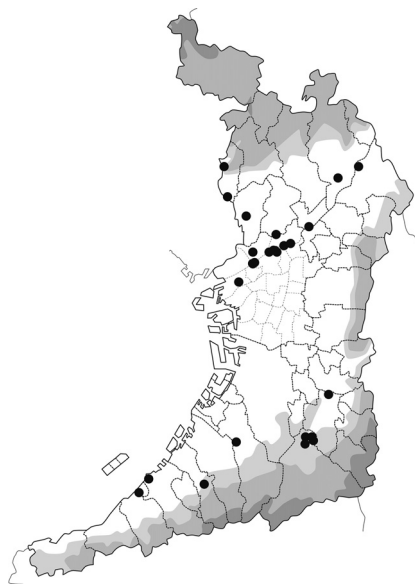


図2：2018年の繁殖期(4月～7月)に大阪府で確認されたハッカチョウの分布。

2019年にかけて、引き続きハッカチョウの情報を集めていきます。京都府や滋賀県、岡山県、愛媛県など、大阪府以外のハッカチョウ情報も歓迎です。もしハッカチョウを見かけたら、是非和田(wadat@mus-nh.city.osaka.jp)までお知らせ下さい。  
 <わだ たけし：博物館学芸員>